



わたしと 未来をつなぐ



SDGs



ワ
ク
ブ
ツ
ク



ク
ツ
ク





わたし+未来=?

高校生のみなさんにとって、「進路」を考える機会はたくさんあると思います。でも、未来の社会はどうなっていて、自分自身はそこで何を目的にどんな生き方をしているのか、具体的にイメージすることはなかなか難しいことかもしれません。

この冊子は「SDGs[※]」と「学問」をキーワードに、みなさん自身の将来と学びたいことを見つけるためのワークブックです。5つのSTEPで構成されていますが、好きなところから読んでみてください。みなさんの未来は、どんなワクワクで満ちているでしょうか？

※ SDGs…地球上の課題を解決するための行動計画として2015年に国連で採択された17のゴール。2030年までの達成を目指して世界中でさまざまな取り組みが行われている。→詳しくはP6、P14へ。

もくじ

STEP 1 自分自身と向き合おう	
バランス感覚を大切に、 自分の心の声を聞いてキャリア選択を	03
STEP 2 社会と自分との関わり方を考えよう	
SDGsから社会と自分を知り、 学問で「モノの見方」を手に入れよう！	06
STEP 3 先輩のキャリアを覗いてみよう	
先輩たちの選択や経験から学び、 未来の自分を描こう！	10
STEP 4 自分の未来を探ってみよう	
学問とSDGsをつなぐワークショップ	12
STEP 5 さらに理解を深めよう	
未来を考えるためのキーワード・参考資料	14

わたしと未来をつなぐSDGsワークブック
発行：2019年11月8日 初版発行

編著：一般社団法人Think the Earth
ディレクター／ワークショップデザイン：笹尾実和子 (Think the Earth)
編集：松本麻美、佐藤由佳 (Think the Earth)
アートディレクター：武田英志 (hoop)
デザイン・イラスト：小島花恵 (hoop)
制作：SPACEPORT Inc.
協力：株式会社博報堂
企画・発行：関東学院大学 (担当：安田智宏、本田卓也)

©2019 関東学院大学
※教育以外の目的での本冊子の無断転載・複製を禁じます

バランス感覚を大切に、 自分の心の声を聞いて キャリア選択を

アウトドアブランド「パタゴニア」でパートタイムスタッフとして働き始め、2019年9月末まで日本支社長を務めた辻井隆行さん。自身のキャリアを振り返りつつ、今の高校生に大切にしてほしいこと、SDGsの視点を活かしたキャリア選択のヒントについて、語っていただきました。

執筆：岩井光子 撮影：奥田晃司

本当にやりたいことをやる

僕は高2からサッカーを始めて、ゴールキーパーを務めていました。スタートが遅かったから、なかなかレギュラーになれなくて、「一番の近道はなんだろう」と考えた末の選択だったんです。高3の夏にようやく試合に出られるようになって、そのまま大学、社会人と、サッカーにしがみついていたのですが、徐々にレベルが追いつかなくなって辞めました。辞める時になって、本当はウイングがやりたかったのに消極的な理由からゴールキーパーを選んだことを後悔しました。

僕らはいわゆるバブル景気(1987～91年)の時代に入社した世代に当たります。その頃、同世代の人たちは、親の目や世間体、友達からどう思われるか、などばかりを気にして、自分の本当の心の声を聞くことが難しいように見えました。だから今の若い人たちは「自分の本当にやりたいことをやるべきだ」と伝えたいですね。高校生のみなさんにも、時々、自分の心の声を聞く時間を持ってほしいと思います。

心の声を聞くというのは実は6年前にインドを訪れた際、シューマツハ・カレッジ[※]の創設者で思想家のサティシュ・クマールさんから僕自身が受けたアドバイスです。

当時、僕が抱えていた悩み事を彼に相談したところ、彼に瞑想(meditation)をするように勧められました。僕はじっとしていることが苦手だし、ちょっと無理だなと思ったのですが、彼曰く、座禅を組んで静かに集中することだけが瞑想ではなく、日常のどこかで1週間の出来事を振り返る時間をつくるだけでも意味があるそうです。例えば、シャワーを浴びる短い時間でも良いから、「今週はよく眠れたかな?」「怒りっぽくなかったかな?」と思い返して、その原因を考えるのです。彼は、“Listen to your inner landscape.”という言い方をしました。要するに自分の内面で起きていることに耳を傾けなさい、ということですね。

meditationと薬を意味するmedicineの語源は、同じだそうです。昔の人は体調を崩したら、この1週間きちんと寝られたかな、家族とケンカをしなかったかなとか、いろんなことを考えて、それでもなお原因がわからない時に、初めて薬草に頼った。だから、このふたつは本来セットであるべきなんですね。現代人は、どこかが痛くな



辻井隆行 (つじいたかゆき)

1968年生まれ。大手自動車関連会社を経て、早稲田大学大学院 社会科学 研究科 修士課程 修了。99年からパートタイムスタッフとしてアウトドアブランドの「パタゴニア」渋谷ストアに勤務。03年にグリーンランド、07年にパタゴニアに遠征し、フィヨルドカヤックと氷河滑降を組み合わせたダイナミックな旅を楽しむ。09年より19年9月末までパタゴニア日本支社長。



※シューマッハ・カレッジ
農や自然環境に親しみながら自己の内面を見つめ、全体の調和を重視した新しい経済学のあり方を学ぶイギリスの教育機関。http://www.schumachercollege.org.uk



パタゴニアが販売もする「ロングルート・ペールエール」。一回の収穫の後に刈り取ってしまう一般的な小麦に対し、何年も成長し何回も収穫できる多年生穀物の「カーンザ」を使用している。「毎年土を耕さないことで空気中の二酸化炭素が土壌に蓄積されます。カーンザの他にはコットンなど、パタゴニアでは、こういった環境再生型農業にも着手しています」

※イヴォン・シュイナード
パタゴニアの創業者で、自身もクライマーとしてアウトドアスポーツを楽しむ。著書では、社員が良い波が来たタイミングでサーフィンに出かけることを奨励する独自の経営哲学を記す。



るとすぐ薬に頼ってしまうから根本にある問題が治らない。語源と言えば、ecology(環境)とeconomy(経済)という言葉も、同じeco(エコ)という接頭語で始まりますが、どちらも「我が家」とか「共同体」を意味する「オイコス」という言葉から派生したとされています。現代社会はメディテーションが抜けてメディスンだけになっているし、エコロジーが抜け落ちてエコノミーばかり優先してしまっているから、さまざまなきしみが起きているのではないのでしょうか。

バランスとつながりを意識することが大事

僕たちは、目に見える数字とか、効率の良さとか、数値化されてわかりやすい定量的な価値が給料に反映されるような近代合理主義の世界に生きていますね。うそをつかないとか、優しいとか、誠実だからとか、数値で測りにくい定性的な価値で給料を上げていたら会社がつぶれちゃうだろ? って。でも、本来は定量的な価値も、定性的な価値もどちらも大事で、両者のバランスを取ることが大事ですよ。

SDGs に掲げられている17のゴールは、貧困とか飢餓とか差別とか、そもそも起きるべきでないことが課題として挙げられています。バランスが崩れた結果、生じた問題を解決しなくちゃね、というのがSDGsだとすると、「就職の役に立たない」と言われてしまいがちな文学や哲学にも、実はものすごく重要なことがいっぱい含まれています。政治も経済も文学も哲学も、要は全部人間のことですから。

思考の枠組みが定量的な価値に偏ると、学問はどんどん細分化、専門化されていきます。例えば、森と里と川と海がつながっていることは誰でも知っているのに、それらをまとめて研究する学部がほとんどないのはおかしい。森林工学や河川工学も大切ですが、一つひとつを切り離すのではなく、全体像を考慮したアプローチも欠かせない。そういう当たり前の視点を取り戻してつながりを意識することが必要なのでは、と思います。

10年、20年後の社会のためにできることを考える

僕は、最初に勤めた会社を辞めてサッカーを引退した後、大学院に入り直しました。その後、今度は自分のやりたいことをやろうと思って、シーカヤックとスキーに夢中になりました。パタゴニアでパートタイムとして働き始めたのは、アウトドアスポーツが推奨されているし、休みも取れるし、その時の自分にはベストな選択だと思ったからです。

だから「日本支社長にならないか?」と打診を受けた時は、正直なところ、あまり乗り気にはなれませんでした。責任が大きくなるし、自分の時間はどうなっちゃうんだろうと。でも、何度か打診してもらって、これは流れに乗った方が良いのかな、と引き受けました。その時に改めて創業者のイヴォン・シュイナード*が執筆した『社員をサーフィンに行かせよう』を読み直しました。正しいことをすれば、結果は後からついてくる、ということが書いてあると解釈して、社員に「正しいと思うことをやってください」と1年間言い続けたら、前任者の時代も含めて初めて売り上げが落ちてしまいました。しかも、結構な額。まずいなと思いました。

ちょうどその頃、アメリカ出張があって会社のパーティーでイヴォンと顔を合わせた時に売り上げが落ちたことを謝りました。怒られるだろうし、クビになるかもしれ

ないと覚悟して。するとイヴォンは、「何のことだ? そんなことは気にしないでいいから10年、20年後の日本の社会のために今、何ができるかを考えなさい」と言うんですよ。驚きました。その言葉は、今でも忘れないですね。

それで、来店してくださるお客様のことを改めて根本から考えるようになり、経営を戦略的にやることを心がけ、売り上げも回復しました。それは僕の力というより、製品づくりに携わる人たち、マーケティングの人たち、ビジネスで環境問題を解決するためにマネジメントしている人たち、接客をしている人たちなど、すべての人が真剣に取り組んだ結果ですよ。日本支社では、アメリカ本社の方針を日本の風土・文化に合わせて練り直すのですが、その戦略に沿って組織全体のエネルギーに無駄が起きないようにうまく発露させることが僕の役割でした。その時に意識したのは、やっぱり、“meet the demand”。その都度変化するお客様の要望に答えなさいというイヴォンの教えでした。

自分のやりたいことは、仲間をつくって突破する

SDGsでもよく言われることですが、キャリア選択でも、フォアキャスト(forecast =現状から改善策を考える)とバックキャスト(backcast =未来の姿から逆算して現状を考える)の両方の考え方が必要だと思います。

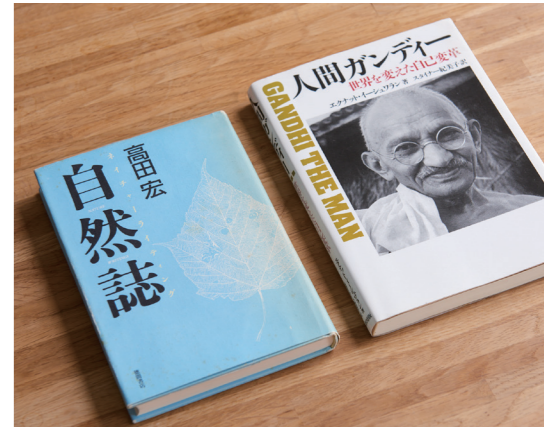
例えば、部活で野球部に所属していて、甲子園に出場するというゴールのイメージをみんなで共有して、夢を実現させるためには何をやらなければいけないかを事細かに話し合っ、日々の練習メニューを考えたとします。その後、途中で脱落する部員が出てきたとき、あくまでみんな一緒に部活を続けることを目指すのか、それとも、練習についていけない部員は辞めても構わないから甲子園に行けるチームづくりを目指すのか、という岐路も出てきますよね。

キャリア選択に置き換えると、将来こうなりたいというビジョンをできるだけ具体的に描くことが大切なのですが、その道程で自分が大切にしているあり方や価値観を捨てなくてはならない場面に遭遇する可能性があります。そのことを自分が受け入れるべきなのかどうかをよく考えた方が良いでしょう。コーチングなどでもdoing(やり方)とbeing(あり方)と言いますが、何を実現したいのかと同時に、自分がどうありたいかを考えることはすごく大事だと思います。



今の子どもたちが本当にやりがいを持って働ける場所を、大人がもっと提供する必要がある一方、この時代に生まれた子どもたちが、自らの力で今ある課題を突破しなければならぬ場面もあるでしょう。ちょっと厳しい言い方かもしれませんが、戦争の時代に生まれた子どもたちが、食糧がなくても必死に生きたように、今度は環境的、社会的困難を抱える世代が、行き場を自分たちでつくる。だから、若い人たちがソーシャルベンチャーを立ち上げる気持ちはよくわかりますよね。

僕から言えることは、仲間をつくってほしいということ。学校は素晴らしい場所ですが、もし、自分の周囲に仲間がいなかったら外へ飛び出してみる。例えば、最近ではエシカルやSDGs、気候危機について学ぶ講座や勉強会もいっぱいあります。そういう場所に積極的に参加して自分に合うコミュニティを探してみてください。人とつながることで突破口が見えることがあると思います。



辻井さんが影響を受けた本。(左)『自然誌』(著:高田宏/徳間書店)「もう廃刊になってしまったのですが、何冊も購入して友人たちにプレゼントした本です。自然にまつわる、詩やエッセイなどの文学が30紹介されていて、アヴェロンで発見された野生児の話、最後のインディアンの痛ましい話など、人間が近代合理主義ばかりを追った結果、世界で何が起きたのか、がわかります(右)『人間ガンディー〜世界を変えた自己変革』(著:エクナット・イーシュワラン、訳:スタイナー紀美子/東方出版)「あのガンジーさんは、ロンドンの超エリート銀行マンだったって知ってましたか? 競争原理のむなしさに気づいて、みんながよく知っている抵抗運動で有名になるのは、40歳を過ぎてからです。彼の人間らしさが感じられる本で、何度も読みました」





SDGsから社会と自分を知り、 学問で「モノの見方」を手に入れよう！

「社会」と「自分」のイメージをつかむには、「SDGs」と「学問」がヒントになります。
SDGsと学問を通して進路を考える方法を、関東学院大学の小山巖也教授に聞きました。

自分の興味関心を社会につなげるには？

あなたに身近な課題も。SDGsとは？

SDGs (Sustainable Development Goals) とは2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な開発目標です。2030年の達成に向けて、17のゴールと、169のターゲットで構成されています。SDGsは、いわば「世界中の人たちがこの先10年で解決しなければいけないと考えている社会課題」です。

社会課題には、貧困、差別の問題、環境問題、さまざまなものがありますが、一人ひとりが認識している課題の範囲は限られた範囲でしかありません。SDGsの17のゴールを通して社会課題を一覧にしてみることで、「こんな課題もあったんだ」と発見することができます。

17のゴールは、開発途上国のみならず先進国の課題でもあるんです。例えばゴール1「貧困をなくそう」。家庭環境を背景とする子どもの貧困や非正規で働く人の貧困など、社会に目を向けてみると日本にも貧困の問題があることに気づくでしょう。SDGsから社会を考えてみることで「身近なところに、実はこんな問題があったんだ」と気づくことができます。



「自分は何を解決したいのか」から考える

みなさんが進路選択をする際にも「こんな学部・学問、選択肢があったんだ」という気づきを、ぜひ得てほしいと考えています。漠然としたイメージだけで、学部・学問を選んでしまうことはもったいないことです。

たとえば経営学部にはどんなイメージを持っていますか？「経営者になりたい人が選ぶ学部」と考える人もいるかもしれませんが、あまり正確ではありません。

私は以前、看護の現場で働く師長・主任さん向けに、研修を担当したことがあります。経営学は、組織の運営について探究する学問です。師長さんは医療の現場で他の



小山巖也 (こやまよしなり)

関東学院大学経営学部 教授。博士(商学)。山梨学院大学商学部商学科 助教授、関東学院大学経済学部経営学科 助教授、経済学部 教授、副学長を経て、経営学部長。研究分野は企業と社会の関係、企業不祥事について。

看護師を束ねたり、医師などと連携を図らなくてはなりません。つまり、経営学を通して組織の運営を学ぶことは、医師・看護師・薬剤師など、さまざまな立場の人がチームになって仕事をする医療の現場でも役に立つ、ということです。

では、みなさんが進路選択をするにあたっては、どうすれば良いでしょうか。気になったSDGsのゴールを起点に、学部・学問を整理してみるのが、ひとつの方法です。自分の興味関心を「より社会性を帯びた問題意識」に昇華させることで、進路選択の手がかりになります。

学問とは「モノの見方」

具体的に、SDGsのゴール14「海の豊かさを守ろう」を例に考えてみましょう。海の豊かさを守るためには、昨今ニュースでも話題になっている、海洋プラスチック問題の解決が必要です。プラスチックに代わる素材の開発をしようと考えた場合、化学や材料工学のアプローチが考えられます。それらを学ぶ学部は、関東学院大学で言えば理工学部。そのほかにも、法律の制定で規制強化することで海の豊かさを守ろうと考えれば法学部で法律を学ぶのもひとつです。持続可能な漁業方法を探究することを考えると水産学部が良いかもしれません。

これらはあくまでも一例です。学びたい「学問」がどの「学部」にあるのかは大学によって多少異なりますし、ゴール14をさらに多様な学問で捉えてみることも可能でしょう。

つまり、学問は「モノの見方」なのです。ある問題に対して、理学から見た観点、工学から見た観点、社会学から見た観点……など、多様な切り口が考えられます。その観点を選択することが、学部・学部選択なのです。

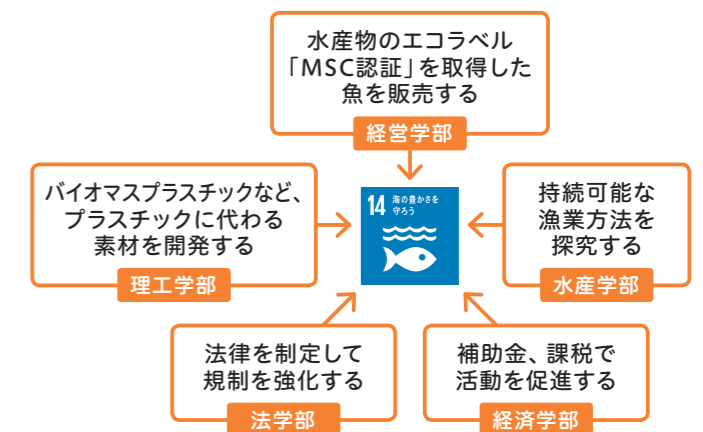
社会を知り、自分を知ること

SDGsを知ることやSDGsを通してモノを見ることは、大人にとっても「知らなかったソリューション(解決法)と出会う機会」になっています。先日、企業の役員の方と話した時、SDGsという世界の共通目標があることで、「あなたのやっていること、持っているものは、こんなところに役立つね」と意見を交換するきっかけにもなっているそうです。SDGsがきっかけとなり、今まで出会ってこなかったモノ同士が出会う。そんな機会が生まれ、社会課題の解決を促進する行動につながるのです。

みなさんが自分の将来を考えるために、まずは「知る」ことが重要です。「社会を知る」「自分を知る」の、ふたつの観点を持ってみてください。まずは世の中にどんな問題があるのか、どんな仕事があるのか。そして、それらと向き合った時に「自分は特にどんなことに関心があるんだろう」「この見方は自分にピタッと合うな」と考え、感じ取ることも大切です。

SDGsをきっかけに社会や自分について探究し、学部・学部について知ること、どんなモノの見方をしたいのか？ 考えてみてほしいと思います。

(多彩なアプローチと関連学問分野)





大学の学問分野一覧

ここでは各大学で学べる学問分野を紹介します。自分の興味・関心がある学問を見つけましょう！

人文科学系

人間とは何かを知り、「人間の幸せ」を探究する

これまでに人が築いてきた歴史、文化、思想を学び、その背景や意味を理解して「人間とは何か？」を追究する。過去につくられたものや起きたできごとを取り上げて、当時それらにどのような意味があったのか、これまで人間が物事をどのように理解してきたのか、心はどのようにはたらくのか、といった思考の形跡を学び、人間を総合的に理解するための広い視野を身に付ける。

- 文学
- 歴史学
- 考古学
- 宗教学
- 哲学
- 心理学
- など

芸術学系

深く心に響く表現で、人びとの感覚を豊かにする

個人の内面や伝えたいメッセージを多様な方法で表現することで、感性を磨き、人の心を動かす力を身につける。視覚で捉えられる絵画、彫刻、写真や、聴覚で捉えられる音楽、その両方の要素を持つ演劇などの表現を通じて、創作の知識や技術、作品の歴史や解釈を学び、芸術に関する方法・理論を研究する。

- 美術・デザイン
- 写真
- 音楽
- 演劇
- など

経済・経営・商学系

より多くの人、組織が豊かになれる社会を実現する

人・モノ・お金・情報の動きを分析し、持続的な社会の発展を考える。国や企業、家計の間で行われる経済活動の仕組みを理解し、限られた資源の最適な配分方法や企業・組織が安定的に成長するマネジメントについて、また、商品・サービスが消費者に届くまでの流れを取引とお金の観点から分析し、社会が持続的に発展する仕組みとその方法を考える。

- 経済学
- 経営学
- 商学
- など

法・政治・社会学系

公正・公平で安全・安心な社会のあり方を考える

人や集団、国の間で起こる問題を、法律や社会制度、統計・データの観点から解決し、公正・公平な社会を目指す。法律の成り立ちやその解釈、社会制度の仕組みやそれが立案される過程を分析し、人や集団の間で起こるさまざまな問題を公正かつ公平な思考で解決する。社会と人間に関わるあらゆる現象を研究の対象に、その歴史や分析方法を学び、より良い社会のあり方を考える。

- 法学
- 政治学
- 社会学
- など

教育学系

これから未来をつくる人たちの道を模索する

学習者の能力や個性を伸ばせる学びと、それを可能にする教育方法や制度・システムを考える。学習者の生涯を通じた心理的な発達や社会的発達の過程と成長のほか、学校運営や授業設計・評価、適切な教授法といった実際の教育方法、これまで行われてきた教育政策、法律の歴史、教育哲学などを研究する。

- 教育学
- 教育心理学
- 保育・幼児教育
- 教員養成
- など

理工学系

自然界の未知の法則・理論を解明し、人類の発展に貢献する

自然界のさまざまな現象に潜む法則・理論を解明し、優れた「モノ」や「技術」、「システム」をつくって、真理探究と豊かな社会・環境の実現を目指す。実験を通して物質や生命の構造・性質を分析し、検証を重ねて現象の背後にある普遍的な法則・理論を解明すると同時に、社会や環境をより良くする自然やエネルギーの活用方法を考え、実際に活用できるものとして世に送り出す。

- 数学
- 物理学
- 化学
- 生物学
- バイオ
- 機械工学
- 電気・電子工学
- 情報工学
- 土木工学
- 建築学
- など

医・看護・栄養学系

健康面から人の幸せを考える

人間の身体や病気のメカニズム、苦痛・苦悩を取り除くケアの方法、食事と健康の関係性を明らかにし、生命と健康を維持・増進する方法を確立する。身体や病気の仕組みを学んで病気の原因と治療方法を考えたり、さまざまな病気に対するケアの知識と技術を学んで患者やその家族の苦痛・苦悩を和らげたり、食事に含まれる栄養素が人体へ及ぼす影響を学んで、健康的な生活づくりをサポートする。

- 医学
- 看護学
- 栄養学
- など

環境学系

自然環境も人の生活も大切に

さまざまな要因が絡み合う環境問題に対して、多様なアプローチを模索し、人間と自然の持続可能な関係を構築する。人間を取り巻く自然、都市、社会の環境問題や、限られた生物資源の生産、育成、加工、流通について、さまざまな領域から環境保全と技術向上に取り組み、環境汚染や食糧不足、生物多様性の問題解決を目指す。生命、農水産、エネルギーなどの幅広い領域を研究する。

- 地球環境学
- 生態学
- バイオ
- 農学
- 水産学
- 畜産学
- 資源工学
- など

国際関係学系

国際的な視点で世界の秩序と平和を考える

国家間で起こるできごとを観察し、その原因と問題点を分析して、国際的に解決する方法を模索する。さまざまな国の歴史、文化、思想や、国境を越えて行き交う人、モノ、お金、情報などの貿易の流れ、国際社会における安全保障や紛争解決の取り組みなど、世界中で起こるできごとを観察し、問題点とその解決策を考える。

- 国際関係学
- 国際文化学
- 国際経済学
- 国際政治学
- など

総合科学系

複雑に絡み合う問題をひも解いて、広い視野をもって解決する

複数の異なる学問分野を学び、既存の学問分野だけでは解決できない地球規模の課題に取り組み、その解決策を探る。人文・社会・自然科学のさまざまな学問領域の基礎を学び、複数の「モノの見方」で自分の興味関心のあるテーマを深掘りし、特定の分野の視点だけでは解決することが難しい課題に対して、複数の分野にまたがる解決方法を考える。

- 教養学 (リベラル・アーツ)
- 人間科学
- 総合政策学
- 学際科学 (例：経済物理学、農業経済学)
- など

※学際…研究対象が複数の学問分野にまたがること。



先輩たちの選択や経験から学び、 未来の自分を描こう！

社会課題の解決に向けてビジネスに取り組む、地域社会に貢献するなど、さまざまな領域で活躍する4名の先輩たちにインタビュー。高校時代の進路選択や大学での学び、キャリア選択の考え方、現在の仕事とSDGsとのつながりについて聞きました。先輩たちがどのように進路を考え、キャリアを選択してきたのか、そのきっかけや考え方を参考にしてみてください。

自分がマイノリティになる
状況に身を置き、
さまざまな価値観に触れよう

日本に留まらず、人生の早い段階で“自分がマイノリティになる場”に、でかけてみてください。さまざまな価値観に触れることができ、世界や日本、そして自分自身



のことを深く知るきっかけになります。これからの社会の流れを考えると、さまざまな国の人々と議論をしながら何かを成し遂げたり、つくり上げたりする経験は重要だと思います。

なかもと ちづ
仲本千津さん

早稲田大学法学部 国際関係コース 卒業
一橋大学大学院 法学研究科 修士課程 修了
RICCI EVERYDAY創業者兼COO。ウガンダにバッグの直営工房を創設、女性や元子ども兵をつくり手として雇用し、彼女らの生活向上と自立を目指す。

A1 高校の世界史の授業で元国連難民高等弁務官である緒方貞子さんを知り、紛争問題を構造的に解決したいと考えたことが、進路選択の軸になりました。

A2 認定NPO法人TABLE FOR TWOでのインターンを通して社会課題解決には“Cool Head but Warm Heart”が大切だと学びました。

A3 大学院修了時「30歳までにアフリカで起業」と目標を設定。10年後の実現に向けたステップを明確に描き、必要な経験を積むことを意識してきました。

私の仕事とSDGs

「世界中の女性が自らのポテンシャルに気づき、意志と誇りをもって生きる世界の実現を目指しています」



後悔しない毎日を、
あなた自身の責任で
突き進んでください！

大学2年次に震災ボランティアを経験したことがきっかけで、卒業後は現地で活動するNPO法人「底上げ」のスタッフとして、地域教育プログラムなどを実施しました。これからの時代、本当に必要なのは「困難から立ち上がる強さ」だと考えています。現在は同NPOでの経験を糧に小学校教員として「社会につながる学び」を心がけ、教壇に立っています。



の だ あつひで
野田篤秀さん

関東学院大学人間環境学部 人間発達学科
(現教育学部 こども発達学科) 卒業
神奈川県横須賀市の公立小学校教員(2年生担任)。大学卒業後5年間、宮城で認定NPO法人底上げスタッフとして活動したのち、現在に至る。

私の仕事とSDGs

「小学校のクラスは社会の縮図です。児童が、他者と自分を許し認め合うことができるよう意識しています」



質問

Q1 高校時代の進路選択について教えてください

Q2 大学・大学院時代の経験や学びで印象的なことや意識したことを教えてください

Q3 これまで、どのようなキャリア選択をされてきましたか？

未来を妄想！
ワクワク生き、自分が心から
賛成することを信じる

学生時代、未来にやりたいことを書き込んでいく「未来日記」をつけていました。なぜそう書いたかは覚えていませんが、31歳の欄に「農業大挑戦」と書いてあったことをきっかけに農業の道へ。「未来を妄想しておき、忘れる」。これは私の人生の大いなるキーワードです。

誰に反対・賛成されても関係ない。自分の命が心から賛成されることを信じることが大切です。



しら と たかし
白土卓志さん

東京大学 工学部 産業機械工学科 卒業
株式会社いかず代表取締役。新卒で大手人材会社に9年勤務後に独立し、オーガニック野菜の生産・販売、レストランの展開、有機農業の学校の運営などを行っている。

A1 文系と理系の向き・不向きはわかりませんでしたが、直感に素直に従った選択をしました。情報量より、情報に触れた時にピンと来るか否かを大切に選びました。

A2 卒業論文では仮説を元に実験で検証を行いました。自分で枠組みやルールを決め、様々な可能性を考え、検証実験をしていくことは仕事でも役立ちます。

A3 今を一生懸命生き、楽しくても悲しくても、日々ワクワク生きるための選択をしてきました。ピンと来たものに素直に従って来たと思います。

私の仕事とSDGs

「環境の多様性を最大化させるよう働きかけ、自然の循環を意識。レジリエントな農業の実践を行なっています」



やりたいことや
その時できることから選ぶ。
自己対話を大切に！

私は大学を休学・復学・中退を経て社会に出ました。自立して色々な所で働いて、自己実現に近づける努力をしたことが今に活きています。人生は、楽しい・苦しいのも自分、努力や行動をするのも自分、結果幸せを感じるのも自分です。キャリアはいつでも軌道修正できます。自己対話をして、誰のせいもしない進路・キャリア選択をしてください。



こ や ゆき の
呉屋由希乃さん

琉球大学法文学部
総合社会システム学科 中退
ジェーエルイー合同会社代表。沖縄県沖縄市出身。「サンゴに優しい日焼け止め」を開発・販売している。ニューヨークでバイヤー経験などを経て、現在に至る。

A1 商業高校出身です。奨学金の範囲で支払いでき、推薦枠から志願できる県内国公立大を受験。選択肢が限られていたため必ず入学するという目標を持ち励みました。

A2 若いうちに、どんなことでも良いから色々な経験をしなければと考え、色々な所で働き、人に会ったり、自己実現に近づける努力をしていました。

A3 キャリアは、「やりたい仕事やその時できること」から選択しました。お金は二の次で、人の信用や友情を大切に、夢があることを優先してきました。

私の仕事とSDGs

「『サンゴに優しい日焼け止め』の販売を通じて、海洋保全の大切さを発信しています」



学問とSDGsをつなぐワークショップ

2030年、みなさんは何歳になっているでしょうか？ 将来はどんな仕事、どんな生き方を選びたいですか？ 将来のビジョンを持っている人も、そうでない人も、ここでは一度SDGsの視点から学問分野を見てみましょう。本ワークショップは、SDGsを学んだことがある高校生を対象に作りしました。このワークを通じて社会を知ること、そして自分を知ること、未来を想像しやすくなるはずです。右ページのワークシートを活用し、授業やクラスの友達とチャレンジしてみてください。

- ワークショップの目的**
- ・選択した学問分野と社会の課題(SDGs)のつながりに気づく
 - ・対話を通じて、学問分野やSDGsに対する新しい視点を得る

ワークショップの流れ

- 個人ワーク (10分)**
ワークブックP8～9にある学問分野から、自分が学びたい、または気になる学問分野を選びましょう。その学問分野を選んだ理由をなるべく多く箇条書きで書きましょう。
- ペアワーク (5分)**
隣の席の人とペアになって、自分が選んだ学問分野とその理由や興味を持ったきっかけを話してみよう。
- 個人ワーク (5分)**
ワークブックP6の小山巖也教授のインタビューを読んで、学問分野とSDGsのつながりを考えてみましょう。
- ペアワーク (10分)**
自分たちが選んだ学問分野とSDGsのつながりについて、2人で話し合い、関係するゴールの番号と自分が関心のある学問分野を実線でつなぎ、その理由を記入してください。
- 個人ワーク (5分)**
ペアワークで新たに気づいたこと、疑問に思ったことを記入してください。
- グループワーク (15分)**
5、6人のグループになって、ここまでのワークで気づいたことや疑問点を共有し、自分と社会の未来について、話し合みましょう。
- まとめ (10分)**
ワークショップの参加メンバーと対話をする中で、これまで見えていた学問分野の魅力以外に、新しい発見はありましたか？ 2030年、どんな社会にしたいですか？ そして、どんな自分になりたいですか？ ワクワクする未来のために、将来のありたい姿と、今、やってみたいことを書き出してみましょう。

先生へ

生徒にSDGsの知識がない場合、個人ワーク③の前、もしくは事前にSDGsの基礎を学ぶ授業を実施してください。

もっと詳しくSDGsを知りたい方へ



SDGsをもっと詳しく知りたい！と思った方は、書籍『未来を変える目標SDGsアイデアブック』（発売：紀伊國屋書店 編著：一般社団法人Think the Earth）をぜひ読んでみてください。本書はSDGsの17のゴールの説明や世界の事例、専門家のコラムを掲載し、中高生が楽しく、分かりやすくSDGsを学ぶための書籍です。学校の授業でも活用されています。また、SDGsには17のゴールと169のターゲット、232の指標があります。ターゲットや指標について学ぶと、より深い議論が期待できます。

ターゲット&指標はこちらのサイトの17アイコンをクリック▶



▼ワークシートのダウンロードはこちら「関東学院大学 受験生応援サイト」
<http://ao.kanto-gakuin.ac.jp/>

チャレンジワーク (15分)

以下の課題について、それぞれの学問分野ではどんな研究テーマや解決策が考えられるでしょうか？好きな問いを選んで、現在の課題や関連するSDGsのゴール、学問分野との関わりについてグループで話し合みましょう。

- 問1 気候変動 問2 プラスチック問題
問3 食品ロス 問4 話したいテーマを設定してみよう！

先生へ

時間があれば、グループワーク⑥の後に以下のワークを実施してみましょう。SDGsと学問分野との関わりがより深く考えられます。

Work sheet

学問とSDGsをつないで、社会と自分の未来を考えよう！

① 関心のある学問分野はなんですか？

④ 学問分野とSDGsのつながりを実線でつなぐてください

① 学問分野を選んだ理由は？

④ 学問と関係するゴールを結んだ理由は？

⑤ 気づいたこと&疑問に思ったこと

⑦ 2030年の社会と自分

どんな社会にしたいですか？

どんな自分になりたいですか？

今や、てみたいこと

未来を考えるための キーワード・参考資料

将来についてもっと深く掘り下げたい！ というみなさんのために、SDGsをより詳しく理解するためのキーワードや、おすすめ書籍・ウェブサイトを紹介します。気になるものをチェックしてみることで、自分と社会の未来を、より鮮明に描き出すヒントが得られるでしょう。



未来を読み解くSDGsのキーワード

※SDGsの概要は、P6を参照

- キーワード 1 私たちの世界を変革する**
Transforming our world
 2015年9月25日に国連で「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」という文書が採択され、SDGsが決まりました。文書のタイトルの原文は「Transforming our world」。このままの世界では人類は生き残れない、という強い危機感から生まれた言葉です。これまでのルールにとらわれず、柔軟な発想で新しい世界をつくるために、若い世代の力が必要とされています。
- キーワード 2 誰一人取り残さない**
No one will be left behind
 すべての国、世界中の人々が幸せに暮らすためにはどうすれば良いのでしょうか。この難題をひも解くために、SDGsは193カ国による政府間の交渉と1000万人もの人々がオンライン調査に参加してつきました。「誰一人取り残さない」ためには、難民や貧困にあえぐ人々など社会的、経済的弱者の立場にいる人たちのことを忘れてはいけません。
- キーワード 3 経済・社会・環境の調和**
 SDGsの前には、先進国の支援によって途上国の課題解決を目指したMDGs(ミレニアム開発目標)がありました。一方でSDGsは途上国も先進国も関係なく、経済、社会、環境の3つを調和させて目標を達成することが重要とされています。この3つの側面は非常に複雑に絡み合っていて、ひとつの側面だけでは今ある世界の課題を解決することはできません。
- キーワード 4 バックキャストの発想**
Backcasting
 SDGsには、未来のあるべき姿から逆算して今、何をすべきか考えるバックキャストの発想が強く打ち出されています。米国のジョン・F・ケネディ大統領が「10年以内(人類は月に行く)」という大きなビジョンを持ち成功させたアポロ計画のように、SDGsも2030年までに達成すべき目標を設定したことで、その実現に向けた行動やソリューションが生まれています。

おすすめ書籍 & ウェブサイト



悩みどころと逃げどころ

著：ちきりん・梅原大吾
小学館
780円(税別)
社会派プログラマーのちきりん氏と、世界で活躍するプログラマー梅原大吾氏の対談をまとめた本。全く正反対の人生を歩んできた二人が「学校の役割」や「いい人生とは？」などをテーマに語り合う。学校生活や今後の進路に悩む人に、ヒントをくれるはず。



研究するって面白い！ —— 科学者になった11人の物語

編著：伊藤 由佳理
岩波書店
820円(税別)
医学、現代暗号理論、代数幾何学など、さまざまな理系分野で活躍する女性研究者11人のキャリアが紹介されている。研究内容やその魅力、どのようにしてその道に進んできたのかについて知ることができる。



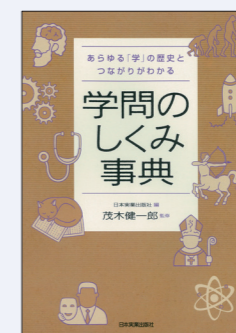
ヨシタケシンスケ 発想えほんシリーズ

著：ヨシタケシンスケ
ブロンズ新社
各1,400円(税別)
『りんごかも しれない』をはじめとした絵本シリーズ。主人公の小さな疑問から、みるみる話は展開し、不思議な世界観にひき込まれる。共感・笑いを誘うアイデアの数々からは、モノの見方や捉え方を学ぶことができるかも。



ミライの授業

著：瀧本 哲史
講談社
1,500円(税別)
エンジェル投資家の瀧本哲史氏が全国の中学校を訪れて開講した特別講義「未来をつくる5つの法則」のエッセンスがまとめられている。ニュートンやビル・ゲイツなど世界を変えた偉人たちの人生から、未来をつくるヒントが見えてくるだろう。



学問のしくみ事典

編集：日本実業出版社
監修：茂木 健一郎
日本実業出版社
1,600円(税別)
あらゆる学問がどのように生まれて発展し、どのような人物が支えてきたのか、を分かりやすく知ることができる一冊。人文科学や社会科学、自然科学、文化芸術までの歴史とつながりを網羅している。気になる「学問」を探してみよう。

Web



13歳のハローワーク 公式サイト <https://www.13hw.com>

中高生のための職業発見サイト。「職業調べ」では分野などで探せるほか、音楽が好き、地図を見るのが好きなど、自分の「好き」から職業を探すことも可能。「先輩インタビュー」には、さまざまな職種先輩のキャリア・仕事の大変さなどがリアルにつづられている。

Web



逆引き大学辞典 (SDGs特集ページ) <https://www.gyakubiki.net/sdgs/>

SDGsに関わる、大学・企業の研究や取り組みが紹介されている。「SDGsと研究内容」をテーマに、大学教授が自身の研究や、その研究を始めたきっかけについて紹介。関心のあるSDGsゴールから、学部や学科や将来研究したいテーマを探ることができる。

みなさんの将来像は見えただけか？
未来はいつでも、ワクワクする道の先にあるよ！



わたしと 未来をつなぐ SDGsワークブック



関東学院大学

《お問い合わせ》関東学院大学アドミッションズセンター
〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL : 045-786-7019 WEB : <http://ao.kanto-gakuin.ac.jp/> ▶

